

神戸大学山岳部 2013 年度夏合宿報告書

文章：山本浩輔(2)

◇行動記録

8月25日 別山岩場登攀

室堂へデポ回収をするついでに立山を縦走するパーティを見送り、B.C を 7:40 に出る。取り付きまでは足場が悪く、落石注意である。8:17 取り付き着。優しいピッチを 15~20 分で登り、最後の核心部へ向かった。ホールド自体は優しいのだが、アルパインのように荷物を背負い、ギアをたくさん持っているると体が鈍くなる。「アルパインでは落ちないことが基本」であるので、核心部を抜けた時の開放感は大きい。思い出に残るムーブであった。

11 時に別山に着き、そのままデポ回収隊を追いかけて真砂岳まで行くが、その先に行くのに皆乗り気でないようなので引き返した。夕食までに時間があつたのでボルダリングをしたりして、思い思いに時間を使った。クライミング漬けの一日で大変面白かった。

縦走組も室堂で楽しみ、景色も良かったそうで、バリエーションには行かなかったものの充実した一日となったのではないか。後立山連峰が綺麗でした。

8月27日 B.C.移動

朝から天気は良くなかった。一瞬だけ空間に何かが見えたような気がした。遠くで雷が発生しているようだった。

出発は 3:12、予定より 12 分遅れである。問題は誰が遅れたというよりも、皆余裕を持って時間を守れなかったことである。1 時間出発自体にはスピードという大きな利点があるが、余裕が無くなって準備がおざなりになる欠点がある。今後は焦らずに急ぎたい。

源次郎取り付きに着く。しばらく待機して天候を見たが、雨が降って来たためすぐに B.C. に引き返す。実はこの時にレインパンツは履いていなかった。出発時間に焦ったため履くように指示を出さず、私も履かなかったのである。今回は少雨で助かったが、強雨ならば足がずぶ濡れになり雪渓上で低体温症になるという最悪の自体を招いたかもしれない。松尾さんからの注意がありながらのミスである。また、剣沢雪渓の上りでは話すことに気が行って、雪渓の随分端まで近づいてしまった。色々と新入生を危険に晒してしまった事への責任を感じている。

雷鳥沢キャンプ場へ B.C.を移動させた後、龍王岳東尾根を登攀するか否か迷ったが、私自身疲労していたのと、新入生にも疲労の色が見えたので休息をとることにした。女性 3 人は川の字になり晴天下で昼寝をして気持よさそうだった。(神経が太くなったようで嬉しい?) 晴れ沈はやはり気持ち良い。山の楽しみは登る事だけではないと思った。

8月28日 笹倉ガイド講習・龍王岳東尾根

7時B.C.を出発し、笹倉氏と合流するまで室堂内を物色して過ごす。合流後9時室堂発で一の越しに9:36着。途中笹倉氏の体幹トレーニングについて興味深い話を聞いたので参考としたい。新人がRFをしながら、10:18取付きに着く。パーティを、坂本・高橋、松村・榊原、山本・井部・松浦に分け、10時半頃、3パーティ同時に登攀を開始した。それぞれのラインを描き登攀するはずだったが、そのうち3組とも同じラインに収束し、渋滞して大変だった。

結局目標の2時間半で登攀完了とは行かず、14時半頃登攀終了。目標より1時間半も遅れてしまい悔しかった。後述のショートピッチ等を利用すれば随分スピードアップを図れるだろう。

1つ重大なミスを高橋が起こしたことに触れておく。取付きにザックを忘れたのだ。一の越まで戻った後に坂本さん監視の元、一人で回収してもらった。二度とこんなミスをやらないで欲しい。

8月29日 笹倉ガイド講習・別山岩場

3:10、B.C発。雷鳥坂では高橋、松浦が遅れる。疲労、靴擦れ等で苦しいだろう。間が開いたのでしばらく待っていると、富山市が見える。山の中で人口の光を見たので、水を差された気分になったのか、安心したのかよくわからない妙な心境になった。空を見るとオリオン座、かろうじてカシオペヤ座がわかる。合宿中にここまでじっくり星空を見ることはなかったので素直に嬉しかった。二人には悪いけど、この日の雷鳥坂の登りは楽しかった。4:25、別山乗越に着く。5時の出発まで行動食を食べ、星の見納めをする。月と近いのに、シリウスは最後まで輝いていた。

別山北方は富士山が見えるほど展望が良い。そこから別山岩場を下り、ハイマツ支点の作り方、カムの使い方、懸垂下降について講習を受けた。11:45に別山乗越着。しばらく剣御前小舎の休憩室でくつろいだ。小屋の人にはお茶をごちそうになりました。感謝。笹倉氏の山の話は興味深く、来年あたりに本気でスコーマッシュに行きたくなりました。

◇報告書

1.生活関係

- ・エマージェンシーシートはSOLがオススメ。丈夫で破れにくい。
- ・シュラフカバー、フリースを持って来なかった。テンプレにはそれなりの意味がある。
- ・V8は、持って行く前の検討が甘かったことに尽きる。
- ・土木作業中にダウンジャケットを着ていたので濡れてしまい、使い物にならなくなった。ダウンは濡れたら使えなくなるという認識が甘かった。
- ・朝は新し目のガス缶を使うと早い。

- ・朝の棒ラーメンは、前日にお湯を用意しておくとも早い。
- ・もっと枕にこだわってもいいかも。
- ・あの夜のことは忘れません。

2.歩行関係

- ・声かけを積極的に行うべきだった。
- ・新入生にはホーホイを言ってもらいたい。
- ・前の人との距離を詰め過ぎていた。
- ・RFについて、積極的に意見を出すべきだった。
- ・行動記録を取り忘れていたことがあった。
- ・休憩は風下で。
- ・メンバーの体調をもっと聞くべきだった。(井部の膝痛とか)

3.登攀

- ・ロープは迷ったら張るべき。自分が行けるかどうかではなくて、一番登れない人に合わせるべきで、時間がかかるからロープを出さないというのは上回生の怠慢だと思います。
- ・スピード重視なら、ショートピッチを利用すべき。ショートピッチとは、中間支点を取らずとも行ける場所は取らずに一気に進むということだが、当然トップは絶対に落ちてはならない。
- ・龍王岳東尾根で新入生の経験値が上がったのは良かった。
- ・ディレクショナルアンカー（トップが進んだコースを暗示する中間支点）という概念。
- ・教科書的に登攀をすると時間を食う。こだわるときりがない。
- ・アンカーに関しては、強度見極めが甘い内は時間がかかっても教科書的になるべきと思う。今回いくつか不安なアンカーを作ったし、見た。アンカーには特別の注意を払うべき。
- ・劔岳周辺ではカムよりもハイマツのほうが信用できることもある。
- ・理想はアンカーに 20KN 以上を求めたい。
- ・強度見極めの重要性。
- ・冬は雪質で強度が随分変わってくる。
- ・アンカーとしてハイマツを使う際、腕の太さくらいあるなら一本からとってもいいかも。(一番大切なのは根本だということを忘れずに)
- ・アンカーには神経質な部の体質を作るべきだと私も思います。
- ・懸垂下降の際、ロープは上から下に通して、ノットを岩側につくこと。(回収しやすい)
- ・ダブルフィッシャーマンズノットの末端は、握りこぶし+親指くらいの長さがあれば良い。末端の長さが揃っていると、ノットの異常に気づきやすい。
- ・懸垂時、下側の末端はスリーホールデットオーバーハンドノットが適している。この結びは上下方向の振動に対して強いから。

・オーバーハンド・ノットは反転を起こす結びだという認識を持つ。用いるなら反転防止を施す。末端は肘の長さくらい。

・フィックスドプロテクション ⇔ リムーバブルプロテクション

・カムを使う際は、セットする岩の強度見極めが重要。

・水平クラックには、外側の刃を下にして使う。

・オフセットクラックには飛び出している方に外側の刃を当てて使う。

・オポジションという概念。